

情報公開用文書（附属病院で実施する医学系研究）

（多施設共同研究用）

西暦 2017 年 9 月 30 日作成

<p>研究課題名</p>	<p>Associating Liver Partition and Portal vein ligation for Staged hepatectomy (ALPPS) 手術後の肝不全発症機序の解明—肝移植後 Small-for-size graft syndrome (SFSS) との関連解析—</p>
<p>研究の対象</p>	<p>2002 年 7 月 1 日より 2016 年 12 月 31 日までに横浜市立大学附属病院および横浜市立大学附属市民総合医療センターで ALPPS 手術（2013 年 4 月 1 日より 2016 年 12 月 31 日まで）および生体肝移植（2002 年 7 月 1 日より 2014 年 7 月 31 日まで）をうけた症例</p>
<p>研究目的 ・方法</p>	<p>[ 目的 ]</p> <p>進行した肝臓の悪性腫瘍に対して行なう特殊な手術である Associating Liver Partition and Portal vein ligation for Staged hepatectomy (ALPPS) 手術の術後に肝不全を発症する機序を解明することを目的としています。ALPPS 手術の際に摘出した標本組織と、生体肝移植後の肝組織の病理組織所見を比較して、ALPPS 手術後の肝不全と生体肝移植後にしばしば遭遇する過小グラフト症候群 (SFSS) の関連を明らかにして肝不全発症メカニズムを明らかにすることを目的とします。</p> <p>ALPPS 手術は、そもそも大量肝切除術後に体内に残る肝臓の容量が不足し肝不全に陥ることを回避する目的で、2 回に分割して手術を行なう 2 期的切除という手技のひとつですが、早期の著しい残肝再生が得られるものの術後の肝不全発症が高率であることが問題視されています。生体肝移植で過小グラフトを移植した際にも移植肝は極めて短期間に再生し容量は増大するもののしばしば肝不全症状 (SFSS) を示すことが知られており、これは肝容量と肝流入血流量のミスマッチが大きな要因と考えられています。</p> <p>今回の検討で、ALPPS 手術と肝移植後の SFSS のメカニズムが類似していることが確かめられれば、SFSS 対策で行われているいくつかの手技を ALPPS の際にも応用でき安全性の向上に寄与できると予想しています。</p> <p>[ 方法 ]</p> <p>すでに ALPPS 手術あるいは生体肝移植を受け、摘出肝組織の存在する患者さんを対象に検討を行ないます。</p> <p>組織検体による検討は、既存の組織を使用して ALPPS 症例と生体肝移植症例を比較し、組織の類似性の有無を検討します。</p> <p>データも肝切除術後あるいは生体肝移植後にすでに行われているデータを使用し解析します。全身状態の評価（体重、脈拍、血圧、体温など）や炎症データ・肝機能データなどの比較です。すでに撮影された CT 画像を用いて、ALPPS 治療経過中の肝臓の容量評価や肝移植後の移植グラフトの容量評価も行い比較検討します。</p> <p>いずれも新たにデータを採取するものではなく既存のデータ、既存の画像を用いて検討致します。</p>
<p>研究期間</p>	<p>西暦 2017 年 11 月 29 日(承認日) ～ 西暦 2018 年 10 月 31 日</p>

# 情報公開用文書（附属病院で実施する医学系研究）

（多施設共同研究用）

<b>研究に用いる 試料・情報の 種類</b>	上記、方法で示したように、すでに摘出されている既存の組織検体、すでに撮影されているCT画像、さらにすでに採取されている一般採血項目のみを解析予定です。
<b>外部への 試料・情報の 提供</b>	当院における上記に記載している研究に用いる情報は、主たる研究機関である横浜市立大学附属市民総合医療センター 消化器病センター外科に提供します。提供の際には、集積したデータにパスワードをかけ、インターネットを介して送付します。主たる研究機関では、特定の関係者以外がアクセスできないよう厳重に保管・管理を行います。
<b>外部からの 試料・情報の 取得と保管</b>	外部からの試料・情報の提供はありません。
<b>研究組織</b>	(研究代表者) 横浜市立大学附属市民総合医療センター 消化器病センター 外科 田中 邦哉 (研究参加施設) 横浜市立大学附属病院 臨床腫瘍科 廣島 幸彦
<p>本研究に関するご質問・ご相談等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。</p> <p>ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますので下記連絡先まで電話またはFAXでお申出下さい。</p> <p>また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはございません。</p>	
<p><b>問合せ先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：</b></p> <p>〒236-0004 横浜市金沢区福浦 3-9 横浜市立大学附属病院 臨床腫瘍科 （研究責任者）廣島 幸彦 電話番号：045-787-2800（代表） FAX：045-782-9161</p>	